

我が校の強み弱み分析・評価シート

調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査結果(滋賀県や全国の水準と比較して)

- ・国語科は、滋賀県の水準を1ポイント上回りましたが、全国水準を0.8ポイント下回りました。
- ・算数科は、滋賀県の水準を1ポイント上回り、全国水準と同等でした。
- ・理科は、滋賀県の水準を2ポイント、全国水準を0.9ポイント上回りました。
- ・児童質問紙からは、国語科、算数科、理科の勉強が好きかという質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回りました。

国語科の強み(○)と弱み(▲) 全国平均正答率 66.8% 本校 66%

- 「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均を上回りました。
- ▲「書くこと」と「読むこと」の領域は、全国平均を下回りました。
- 例年課題のあった記述式問題の正答率が、全国平均をわずかですが上回りました。
- ▲国語の勉強が好きですかという項目と得意ですかという項目で全国平均を大きく下回りました。

学力はほぼ全国水準並みなのに、自己評価と好意度が低い結果が出ました。「できているのに自信がない」「嫌いだから苦手だと思いつつ」傾向が強く、心理的なハードルが学習意欲を阻んでいる可能性があります。表現活動や読解の楽しさを再発見できるように授業改善を進めていきます。また、自ら問いをもつことで主体的に学習に向き合えるように校内研究を進めているところです。

算数科の強み(○)と弱み(▲) 全国平均正答率 58% 本校 58%

- 学習指導要領の領域別に分析した結果、全国平均を1ポイント以上上回る領域も、1ポイント以上下回る領域もありませんでした。
- 昨年までの課題であった記述式の問題に対する無回答率が改善されました。
- 昨年は4題とも全国平均を下回った記述式の問題では、2題で全国平均を上回りました。
- 算数の勉強が得意だと感じている子どもが全国平均を少し上回りました。
- ▲算数の勉強が好き、分からないとき諦めずにいろいろな方法を考える、自分の考えを説明するという質問に対して肯定的な回答が全国平均を大きく下回りました。
- ▲授業で、どのように考えたのか説明する活動が全国水準よりも少ないという結果が出ました。

得意意識が全国平均をわずかながら上回っており、自己効力感は低くないと見えます。ただし「好き」はやや低めで、計算や問題解決の楽しさを十分に感じていない子どもが多いと考えられます。解けなかった問題が解けた喜びを味わったり、実生活とのつながりを意識したり、考えを説明する時間を確保する授業を進め、算数に対する好意度を引き上げる必要があると考えています。

理科の強み(○)と弱み(▲) 全国平均正答率 57.1% 本校 58%

○「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域で全国平均を上回りました。

▲「生命」を柱とする領域は全国平均を下回りました。

○無回答率が全国平均より低く、粘り強く取り組む姿が見られました。

学力は高いが、得意・好きの両面で意識が低い結果が出ました。潜在力が生かされていない可能性があります。実験や観察を、驚きや発見に満ちた体験にすることで、興味関心を高めていきたいと考えています。また、探求心を刺激する授業設計で意識と学力のギャップを埋めていきたいと考えています。「できるだけ楽しくない」という印象を払拭できるように努めます。

児童質問紙より

○ICTを活用して効果的に学習できています。

○読書が好きだという子どもがたくさんいます。

▲寝る時刻、起きる時刻を同じにできていないなど、生活習慣に乱れが見られます。

▲健康にすごすために保健などで学習したことを、普段の生活に役立てられていない児童が多く見られます。

▲勉強が好きだと感じていない子どもが目立ちます。

基本的な生活リズムが乱れている児童が年々増えています。学習意欲や集中力への影響が出ていることを学校でも実感しています。スマホの使い方など、各家庭で今一度ルールを確認し上手に使えるよう指導を強化してください。

学校でのICT活用には肯定的な回答が目立ちました。GIGAスクール構想の浸透が反映されています。今後学習意欲向上にもつなげていけたらと考えています。

学力はもちろん大切ですが、「学ぶことが好き」「自分にはできる」という気持ち、長い目で見て最も大きな力になります。ご家庭でも、ぜひお子さまの小さな成長や前向きな姿勢に目を向け、温かい励ましをお願いいたします。